

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 161 2月号

2019年2月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

電子図書館へは、
右のQRコードから
(<https://www.d-library.jp/haritei/>)

播磨科学公園都市圏域
定住自立圏電子図書館



読書と私 No.151

「背伸びの読書」

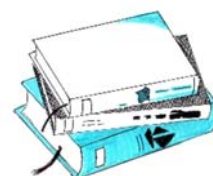
揖保川町 岩切 璃羅

私は小学生の頃から読書が好きで、暇さえあれば本を読んでいた。「類は友を呼ぶ」とはよく言ったもので、友人も読書好きでした。小学4年生のある日、友人が私を揖保川図書館に連れて行ってくれました。生まれて初めて訪れた図書館で、小学校の図書室とはくらべものにならない程のたくさんの本に圧倒されたことを今でも鮮明に覚えています。図書館に通い慣れていた友人は、どの書架にどの分野の本があるかを把握していましたが、初めてだった私はただ友人の後ろを付いていくことしかできませんでした。

そんな私のために、友人は「この本、おもしろいよ」と1冊の本を薦めてくれました。その本はミステリー小説で、私には少し難しいと感じましたが、頑張ってみることにしました。読んでみると、予想以上に漢字や内容が難しく、辞書を引ながら必死に読み切りました。それは私にとって、初めての背伸びの読書でした。それを機に、図書館に行く回数が増えました。図書館で気になった本を読むことで、とても充実した時間を過ごすことができました。また、自分にとって少し難しいと感じる本をあえて選んで読むことにしてきました。この背伸びの読書が、私をより一層成長させてくれたと自負しています。

高校生になった今も、私は図書館に通っています。最近では、江戸川乱歩の『蜘蛛男』や志賀直哉の『暗夜行路』を読みました。いつもの読書に少し刺激が欲しくなった時、私はまた背伸びの読書をするつもりです。背伸びした分だけ大人になれる気がするから。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。



あかりや 『照明家人生 劇団四季から世界へ』 吉井 澄雄 著 早川書房



劇団四季の創立に参加し、
あさりけいたにながわゆきお
浅利慶太、蛭川幸雄たちと共に演劇界を革新した舞台・照明デザイナーの第一人者・吉井澄雄の書いた本書は、自伝、演劇論、照明論、随筆の四部構成からなる。

照明家は〈光〉と〈時間〉を自由に操作することで、舞台を変容させることができる。照明とは観客と演者が同一空間で一瞬出会うのを助ける仕事なのだと著者はいう。

昭和36年に日生劇場建築に参画した縁で、20世紀オペラ最大の傑作、アルバン・ベルクの『ヴォツェック』の招聘に向けて交渉し、既にチケットも完売した後に、ベルリンから「日生劇場のオーケストラピットは狭くて『ヴォツェック』の上演は不可能。よって演目を変更したい」との電報が届く。そこで著者は、劇場近くの小学校校庭にオーケストラの配置を実際に

行い、凶面に落とし上演にこぎつけるが、本番練習ではやはりオーケストラピットが狭く、これでは演奏できないと不平を言われたことなど苦心を語る。また、その頃著者は、日本の劇場建築の設計資料の貧困さを痛感し、後年建築学会の『建築設計資料集成』の改訂委員になる。戦友の浅利慶太、蛭川幸雄との仕事は国際的な扉を開け、英国の芸術監督サー・ピーター・ホールに指名されるほどの照明家となった。

照明機材の導入を含め、色彩豊かな舞台が観られるようになるまでの困難な道を開拓してきた著者の半世紀は、戦後の舞台芸術史そのものであり、手がけた舞台は、時代の貴重な証言となっている。

本書を一読して劇場に出かければ、舞台の観方も変わる一冊となっている。

(龍野図書館 片岡)

トピックス イベントのお知らせ

※申込、問い合わせは各図書館まで

全館

JBBY(日本国際児童図書評議会)子どもゆめ基金助成活動
世界の子どもの本展

2016年にIBBY(国際児童図書評議会)が選んだ優良図書を中心に、国際アンデルセン賞の受賞作を含む48言語の子どもの本約200冊を巡回展示します。※休館日はカレンダー参照。

※各館とも最終日は16時まで

- 龍野図書館：2月1日(金)～7日(木) 10時～17時
- 揖保川図書館：2月8日(金)～14日(木) 10時～18時
- 御津図書館：2月15日(金)～21日(木) 10時～18時
- 新宮図書館：2月22日(金)～27日(水) 10時～18時

揖保川図書館

「エルマーのぼうけん」から読み解くアメリカの子ども
-作者ルース・S・ガネットの幼年時代-

翻訳家の前沢明枝さんをお迎えし、子どもと本について考える講演会を開催します。

- 【講師】前沢 明枝 氏 (翻訳家・作家・JBBY理事)
- 【日時】2月11日(月・祝) 14時～16時 (開場13時30分)
- 【場所】たつの市総合文化会館 アクアホール1階 リハーサル室
- 【対象】一般 【定員】70名 (先着順・要申込)

新宮図書館

講演会「ようこそ 白い大陸 南極へ！」

南極地域観測隊越冬隊員として、14ヶ月間南極に滞在した体験を語っていただきます。

- 【日時】2月17日(日) 13時30分～15時
- 【講師】宮下 泰尚 氏 (豊岡市職員)
- 【対象】小学生以上 【定員】50名 (先着順・要申込)

南極展 (2月17日まで)

上記の宮下氏所有の南極の写真パネル・装備の展示と南極観測船「宗谷」の設計に携わった元海上保安庁技術者の故香山 匠 氏 (旧新宮町出身) が所有されていた資料を紹介します。

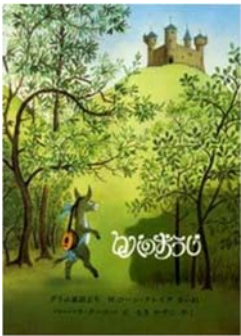
龍野北高生から絵本を寄贈していただきました！

昨年の「たつの市民まつり」において、同校生徒の皆さんが、市内図書館から提供を受けたリサイクル本・雑誌を提供するコーナーを出店されました。その際、図書館に絵本を贈る趣旨の募金を行い、この度その募金で絵本4冊を購入し、市内各図書館に1冊ずつ、絵本『かいじゅうたちのいるところ』を寄贈していただきました。本当にありがとうございました。

おすすめする子どもの本・149

『ロバのおうじ』

M.ジーン・クレイグ さいわ バーバラ・クーニー え もき かずこ やく ほるぷ出版



昔、平和な国を治める王と王妃がいました。ふたりはすべてが幸せでしたが、唯一の悩みは、子がないことでした。そこで、子を授かるように魔法使いに頼み、金貨33袋を支払う約束をしました。ところが、王は金貨の袋に鉛を混ぜて支払いました。怒った魔法使いは、生まれる子がロバそっくりであるように呪文をかけました。そしてその呪文は、誰かがロバの姿を気にせず愛するようになるまで、一生続くものでした。

誕生したロバの王子は、他の子どもと同様に育てられ、同様に遊びや勉強ができましたが、容姿のせいで周りの人にも両親に

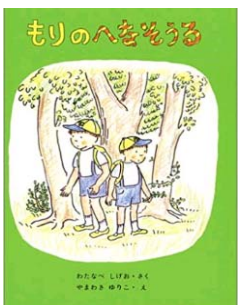
も愛してもらえません。そこで王子は、自分を受け入れてくれる場所を求めて、得意な楽器のリュートとともに、旅に出ます。

月日が過ぎ、立派なお城へ来たロバの王子は、リュートの演奏を姫に気に入られ、お城で暮らすことになりました。美しく優しい姫たちと幸せな毎日を送るある日、姫が3人の王子から結婚を申し込まれていることを知ります。心が張り裂けそうなロバの王子でしたが、姫からのずっとそばにいてほしいという愛の言葉で魔法が解け、凛々しい若者の姿に変わります。

温もりのある色彩の絵が、ロマンチックな物語を一層美しく引き立てています。読んであげるなら5歳くらいから。

(揖保川図書館 田川)

『もりのへなそうる』 わたなべ しげお さく やまわき ゆりこ え 福音館書店



てつたくんとみつやくんは兄弟です。2人はある日、地図を持って森へ散歩にでかけました。すると大きな木の下にてつたくんの背丈ほどもあるたまごを見つけました。

次の日また森へ来てみると、たまごはなくなっていて、代わりに変な動物がいました。その動物は「へなそうる」といって、顔はカバのようで首はキリンのように長く、背中からしっぽまでトゲトゲで、体は赤と黄色のしま模様をしています。

そのうちお腹がすいてきたへなそうるは、2人からおにぎりをもらいましたが、もつと食べたくておにぎりが入っていたリュックサックに頭を突っ込みました。すると、

頭が挟まって抜けなくなってしまいました。へなそうるは後ろへ下がってあちらへよろよろ、こちらへごろり。「ぼか、どうしたの?」と声を上げますが、2人には「ぼが、どうひたも?」と聞こえます。その様子がとてもおかしくて、2人は手をたたいて「へなそうる こちら、てのなるほうへ!」とへなそうるに呼びかけました。

色鉛筆の柔らかな色合いが温かく、森の中で楽しく遊ぶ情景が目には浮かびます。

また、舌足らずで怖がりなへなそうるの愛らしさがユーモアたっぷりに描かれています。

他にも、かくれんぼをするお話や、カニを捕まえるお話があります。読んであげれば5歳くらいから楽しめます。

(御津図書館 内田)



2月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

9日(土)・16日(土) 11時～11時20分
『とらたとおおゆき』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

10日(日)・18日(月) 11時～11時20分
『おおきなかぶ』他

揖保川図書館 【対象】2～4歳児、保護者

2日(土)・9日(土)・16日(土) 10時30分～10時50分
『てぶくろ』他

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

10日(日)・17日(日)
11時～11時20分
『ちいさなねこ』他

【対象】5歳児～

10日(日)・17日(日)
11時30分～11時50分
『ジャムつきパンとフランシス』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳児以上】・・・昔話などの語り、絵本の読み聞かせなど

新宮図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)
10時15分～10時45分
「みつけどり」他

揖保川図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)
11時～11時30分
「大工と鬼六」他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

8日(金)
10時～11時30分
『暗幕のゲルニカ』
原田 マハ 著

揖保川図書館

1日(金)
10時～12時
「梅の蕾」
吉村 昭 著

御津図書館

20日(水)
13時30分～15時30分
『見る力』
阿川 佐和子 他 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

14日(木) 10時～11時30分
『鹿の王』上橋 菜穂子 著

龍野図書館・中央公民館駐車場の使用について

駐車場工事のため、2月中旬から3月中旬まで、駐車場の一部が使用できません。大変ご迷惑をおかけしますが、ご了承下さい。

※工事の都合で時期を変更する場合があります。

館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

“春”は、すぐそこに

みつ梅まつりをはじめ、龍野の桜、花の便りが届く季節になります。お出かけのプランに役立つ本や花の本を展示します。また、人生の門出に役立つ本などもご用意しています。

【期間】3月31日まで

新宮図書館

南極関連本の展示

人類最後の未知の大陸・南極の自然や生き物、観測の歴史など南極関連の本を展示します。展示最終日には南極関連の講演会があります。

(p2をご覧ください。)

【期間】2月17日まで

揖保川図書館

地元再発見

わたしたちの暮らすたつの市は、龍野・新宮・揖保川・御津の4地域それぞれに特色があります。各地域の自然・歴史・文化について学び、地元の魅力を再発見してみませんか？

【期間】2月27日まで

御津図書館

心もからだもあたたまろう

心あたたまるお話や、温泉あれこれ、冷え性対策、温かい料理などを集めました。心とからだをあたたためて寒い冬を乗り切りましょう！

【期間】2月27日まで